

平成二十四年 第二回臨時会

〔一条例改正〕

議案第40号

標茶町職員の特種勤務手当に関する条例の一部を改正

町立病院では、今まで、リハビリ関係で理学療法士2名体制でしたが、新たに作業療法士が採用されました。これによって、リハビリ体制が一層充実されました。

議案第41号

標茶町新規就農者誘致特別措置条例の一部を改正

従来、新規就農予定者受け入れ農業者に対して受け入れ指導費助成を行っていましたが、これを廃止し、代わって新規就農予定者に対し、1名につき1月当たり5万円以内の研究助成金の交付を行うものと改正されました。

一般質問

町政を問う

第二回定例会では、四名の議員が六件の一般質問を行いました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。

簡易郵便局が廃止とならない取り組みを

深見 迪 議員

町長 維持・向上が図られるよう対応していく

問 第180国会で4月27日、郵政民営化法が「改正」された。改正では保険や貯金を扱っていない簡易郵便局などは「郵便局」とはみなされなくなるということなどで、過疎地域での郵便局ネットワークの縮小につながるかねないと思われる。

本町には、郵便窓口のみの阿歴内簡易郵便局と郵便窓口と貯金業務を行っている上オソツベツ簡易郵便局があるが、地域の宝のような簡易郵便局を守りたい。

議会では意見書も提

出したが、郵便業務のユニバーサルサービスがこれ以上後退しないよう、町としても国に働きかけを行うべきと考えるがどうか。

答 郵便局は、国民にとって全国津々浦々に広がる地域住民のライフサービスとして、なくてはならない存在であり、どんな過疎地域等でも公平に提供されることが必要であると考えている。

採決では、「置局水準を現行法より後退させることのないよう必要な措置を講ずること」とした付帯決議がされているので、そのことが実行されるべきものと思っている。

地域住民にとって利便性の維持・向上が図られるよう、今後とも注視をしながら、対応していきたい。



—上オソツベツ簡易郵便局—

本多耕平
議員

町道東国1線の改良工事を望む

町長 工事着手へ向けて準備を進めている

問 上茶安別住民、そして町道利用者の長期要望であった改良工事が進んでいるが、完成は何年くらいを計画しているのか。更に標茶中茶安別線に接続している町道東国1線の改良事業計画の是非を伺いたい。当地区の離農休農が相次ぎ、地区の農地を守っているのは地区外の農業者が多い。農繁期は特に大型機械の往来があり、危険箇所も数多く一日でも早い改良が望まれているが対応を聞く。

答 長年の地域要望を経て、標茶中

茶安別線は、防衛省所管補助事業の採択を受け、平成19年より実施設計、用地買収から事業着手をしている。平成21年度からは改良舗装工事と実施設計及び用地買収等を並行して進めている状況で、完了年次は平成35年である。改良舗装工事の進捗

は、平成23年度2カ年国債発注分で、全线路線延長12・8キロメートルのうち約28%に当たり、3・6キロメートルが完成あるいは工事中である。厳しい補助予算の中、全体計画延長が12・8キロメートルと長い路線の計画であり、全体延長を4期に分割して事業をスタートさせた。その後3期に変更し、1期工事を進めている。次に、町道東国1線の改良事業について、長年の地域要望であり、補助事業での実施を模索していたが、補助事業での採択は望めない。よって起債事業「ふるさと農道緊急整備事業」での平成25年度工事着手へ向けて準備を進めている。



—標茶中茶安別線工事—

問 現在、人口減少問題は喫緊の課題とされている。北海道をはじめとする各市町村のウェブサイトをみると、住環境やイベント・サポート態勢などアピールされており、積極性が見てとれる。

標茶町においてもワンストップ窓口が設置され随時対応をされている事と思う。北海道としてはシニア層をメインとした移住推進を図っているように見受けられるが、標茶町においては現役世代へのアピールも必要と考える。標茶町として事業を推進するにあたり、今後具体的にどのような方針で進めていくのか所見を伺う。

長尾式宮
議員

効果的な移住推進事業を

町長 幅広い層の移住推進を考えている

また、地域の魅力を伝えるためには地元商工会・観光協会・農協等に協力を仰いでいるとは思いますが、連携が取れているのか伺う。

本町においては、幅広い層のターゲットと考えるが、就労の場も必要であり、企業誘致や地元産業の育成等の政策と並行して魅力発信を図っていく。

答

今回、地元経済団体や観光協会等と連携し「ちよつと暮らし・お試し暮らし」の予算を提案しており、積極的に推進していきたい。



—お試し住宅—